

むらかみ ただよし  
**村上 忠喜**

文化学部 教授  
文学修士 / 佛教学部文学研究科  
文化学部京都文化学科主任

☒ ホームページ URL  
なし

**主な研究業績**

- 村上忠喜「京都祇園祭—行事を支える人々と山鉾の美」(京都文化博物館企画・編集「京都祇園祭 町衆の情熱・山鉾の風流」思文閣 9-17頁 2020年)
- 村上忠喜「ユネスコ無形文化遺産「和食」提案とその影響—京都の文化財保護行政を例に」(國學院大學研究開発推進機構学術資料センター「文化財の活用とは何か」六一書房 93-113頁、討論 143-156頁 2020年)
- 村上忠喜「緑紅さん—京都の民俗研究の先達」(「緑紅叢書復刻版 別冊・解題」三人社 14-25頁 2019年)
- 村上忠喜「誠にと禊の年中行事」(「年中行事の民俗学」八千代出版 103-118頁 2017年)
- 村上忠喜「研究動向・文化財」日本民俗学会『日本民俗学』277号 129-148頁 2014年
- 村上忠喜「写真でたどる祇園祭山鉾行事の近代」京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 2-74頁 2011年
- 村上忠喜「神性を帯びた山鉾—近世祇園祭山鉾の変化—」日次紀事研究会編「年中行事論叢—「日次紀事」からの出発—」(岩田書院) 289-312頁 2010年
- 村上忠喜「伝統的な都市の民俗」『日本の民俗 10 都市の生活』吉川弘文館 77-180頁 2009年
- 村上忠喜「文化行政における古写真資料化の今後」植木行宣監修 / 鹿谷勲・長谷川嘉和・樋口昭編「民俗文化財 保護行政の現場から」(岩田書院) 210-220頁 2007年
- 村上忠喜「屏風祭りの系譜」新谷尚紀・若本通弥編「都市の暮らしの民俗学② 都市の光と闇」(吉川弘文館) 172-196頁 2006年
- 村上忠喜「みやこのフォークロア—都市民俗学の今後—」八木透編「フィールドから学ぶ民俗学」(昭和堂) 311-331頁 2005年
- 村上忠喜「京町家のオモテ・ウラ、そしてオク」京都映像資料研究会編「古写真で語る京都—映像資料の可能性—」(淡交社) 172-196頁 2004年
- 村上忠喜「オク性の希求—京町家の生活文化—」民俗建築学会『民俗建築』124 4-12頁 2003年
- 村上忠喜「一枚の写真—近代京都庶民生活写真引き—」京都市文化市民局文化財保護課 1-79頁 1999年
- 村上忠喜「グアテマラ高地マヤの定期市と村落JIT中南米学術調査プロジェクト編集 たばこと塩の博物館発行「グアテマラ中部・南部における民俗学調査報告書」13~237頁 1996年

**研究テーマ Research theme**

**(古) 写真を中心とした映像の資料化、及び映像民俗資料論の構築**

**概要 Overview**

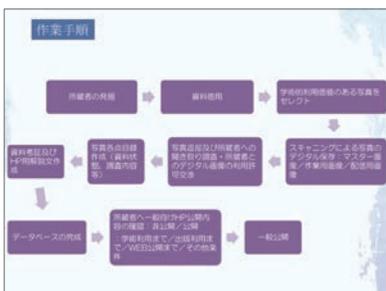
(古) 写真の資料化への取組は、その資料性の豊かさから、効果的な利用を期待する学問分野は多く、一般社会においても様々な局面での利用が行われてきている。地方自治体においても、自治体史編纂等の過程において(古) 写真が集積されてきた。こうした事業の成果は徐々に世に出てきているが、(古) 写真を群として価値付けしていくために必須である資料批判の方法、また調査・保存・公開までを視野にいれた資料論の構築についてはまだまだ途上にあるといつてよい。私の研究の目的は、一般社会に埋もれている(古) 写真を中心とした映像を、民俗資料としてどのように資料化し利用可能にしていくかを含めた、映像民俗資料論の構築にある。

この研究のフィールドとして京都は最適である。それは大都市であるがゆえに、アジア太平洋戦争前から写真を撮りアルバムを作るハイカラ趣味の方々が多くおられたこと、そして先の大戦で壊滅的な空爆を受けていない日本唯一の大都市であることから、市井に死蔵される写真をはじめとする映像資料の絶対的な量が期待できるからである。それは、単なる想定だけでなく、かつて京都市文化財保護課時代に、京都デジタル・アーカイブ研究センターにて行った映像資料アーカイブ事業を遂行する中で確かな手ごたえを感じている。

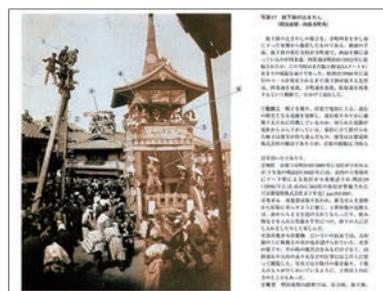
資料を次の手順で収集・保存する。

〈所蔵者の発掘⇒資料収集(借用)⇒スキャンによる写真のデジタル保存(保存用 TIFF・使用 JPEG)⇒写真返却及び所蔵者への聞き取り調査・所蔵者とのデジタル画像の利用許可交渉⇒基礎データベース作成(資料状態、調査内容等)⇒資料考証⇒資料考証の結果を所蔵者にフィードバック、確認⇒データベースの完成〉といったサイクルを、同一地域内で複数回繰り返していく。

その上で、写真による実験的民俗誌の叙述法を確立させていく。その過程において、資料批判の方途を含めた、映像民俗資料論構築への準備を進めていく。と同時に、デジタル資料化されたデータを公開し・周知することで、さらなる調査の拡大へと循環するシステムを作り上げるとともに、国内外の同種の事業との交流・ネットワーク化を図る。



古写真デジタル・アーカイブ作業手順



古写真を利用した写真引きの例(『一枚の写真』21頁)

**応用分野 Application areas**

直近の過去における生活世界を復原することを通して、豊かな生活文化の実態を紹介すると同時に、その断絶や継承のあり方を追いかけて、生活文化についての常識や思い込みの見直しを進める。このことは、災害対応や危機対応など現代的な課題にも対応する基盤となる生活知を社会的資本として蓄積する作業でもある。

**共同研究等へのニーズ Need for joint research**

現在稼働中、休止中に限らず、古写真の収集・研究・公開機関との協働を進める。具体的には、デジタルオブジェクト識別子(DOI)を付与することを進め、コンテンツの利用を基礎にした共同研究の途を模索する。